

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士 (マネジメント)	氏名	磯本光広
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目			
<p style="text-align: center;">行列簿記の現代的意義とその展開可能性 ——歴史的経緯と構造の視点から——</p>			
論文審査担当者			
主査	教授	星野一郎	印
審査委員	教授	村松潤一	印
審査委員	教授	林幸一	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、永らく注目されることが少なかった「行列簿記」に対して、とくにここ十数年間で急速に進歩してきたコンピュータの処理速度と集積度そして価格低下、さらにはそれらを支えるソフトウェアの進展などを踏まえ、行列簿記の再評価と現代的意義を考察したものである。</p> <p>本論文は3部で構成され、各部はそれぞれ2つの章で成り立っている。第1部は「行列簿記の起源」、第2部は「意思決定と経営分析」そして第3部は「記帳の効率化とデータ保持」である。序章と終章は除き、第1章は「行列簿記の萌芽と生成」、第2章は「行列簿記の構造と種類」、第3章は「行列簿記と意思決定」、第4章は「行列簿記表と経営分析」、第5章は「記帳の効率化」そして第6章は「DBMSと複式簿記」という論文構成である。</p> <p>行列簿記は、レオンチョフの産業連関表に着想をえたマテシッチが考案したものであり、その名称にいくぶんの相違はあろうとも、19世紀にはすでに利用されていた。行列簿記は一覧性に優れている反面、その行列が膨大になるというトレードオフに遭遇してきた経緯がある。けれども、先述のとおり、コンピュータ技術の高度化と低廉化の進展から、その価値が再認識され、さらにその使用を促した。</p> <p>本論文では、産業連関表との関係そして経営分析さらには「経営俯瞰ツールとしての存在意義」を具体的に検討したものである。本論文の特徴のひとつとして、一部は歴史(的)研究を踏まえながらも、それに事例研究を組み込むことによって、あえて表現すれば、行列簿記に対する現代的評価と理論的評価を積極果敢に展開している点がある。このような試みは、学術的なリスクを内包するとともに、それが成功したあかつきには、豊穡な会計分析ツールとしての将来が拓かれる可能性を有している。本論文は、そうした意味と側面において、学術的にも実務的にも高く評価することができると考えられる。</p> <p>また本論文の複数の章は、すでに査読付き学術雑誌に掲載されており(とくに『産業経理』</p>			

への掲載は院生としては非常に稀である), 学界からも相当の評価を受けた実績をも勘案すると, 本論文の学術的意義は高いものと評価できる。

本論文においては, そのような経緯とその背景そしてその理論的意義と実務的意義にかんして, 丹念な調査と論証により説明と考察がなされている。こうした研究は, 散発的または部分的にはなされていたものの, それを, 意思決定と経営分析, 記帳効率化と DBMS, そして「経営俯瞰ツールとしての存在意義」として網羅的かつ総合的に考究した研究は, おそらく存在しない。そのような意味と側面においても, 本論文の内容とその結論そしてそれにいたる過程の論理性と説明力は高く評価できる。

以上, 審査の結果, 本論文の著者は博士 (マネジメント) の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は, 1,500 字以内とする。